

美 術

目 次

1	美術科改訂のポイント	1
2	美術科の目標のポイント	2
3	美術科の内容のポイント	3
4	第1学年の指導のポイント	6
5	第2学年及び第3学年の指導のポイント	7
6	美術科の指導計画作成と内容の取扱いのポイント	9
7	奈良県の郷土の素材等を活用した指導例	12

1 美術科改訂のポイント

(1) 改善の基本方針

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）については、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むことなどを重視する。



- 子どもの発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にするとともに、小学校図画工作科、中学校美術科において領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示す。
- 創造性を育む造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かに関わる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。
- よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。
- 美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。

(2) 美術科改訂の要点

【目標の改善】

教科の目標では、「美術文化についての理解を深め」を加え、美術を愛好する心情と感性を育て、美術の基礎的な能力を伸ばすとともに、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを一層重視する。

【内容の改善】

ア 表現領域の改善

「A表現」の内容を「(1)感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」、「(2)伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」、「(3)発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。」とし、内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理する。

イ 鑑賞領域の改善

我が国の美術についての学習を重視し、第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し、3年間で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにす

る。自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し、第1学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ、3年間で説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにする。

ウ 「共通事項」の新設

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を「共通事項」として示す。「共通事項」は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習を通して指導し、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージを捉えたりするなどの資質や能力が十分育成されるようにする。

エ 表現形式などの取扱い

スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどは、生徒が学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、自分の表現意図に合う表現形式や表現方法などを選択し創意工夫して表現できるように配慮事項に示している。

2 美術科の目標のポイント

(1) 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

- 小学校図画工作科における学習経験と、そこで培われた豊かな感性や表現及び鑑賞の基礎的な能力などを基に、中学校美術科に関する資質や能力の向上と、それらを通じた人間形成の一層の深化を図ることをねらいとし、高等学校芸術科美術、工芸への発展を視野に入れつつ、目指すべきところを総括的に示している。
- ①美的、造形的表現・創造、②文化・人間理解、③心の教育の三つの視点を十分に踏まえて、教科目標の実現に向けて確かな実践を一層推進していくことが求められる。



「美術を愛好する心情を育てる」ためには、自分のしたいことを見付け、そのことに自らの生きる意味や価値観をもち、自分にしかない価値をつくりだし続ける意欲をもたせることが重要である。したがって、美術を愛好していくには「楽しい」「美にあこがれる」「夢中になって取り組む」などの感情や主体的な態度を養うことが大切である。



美術においては、古くから受け継がれてきた美術作品などを鑑賞することにより、その国や時代に生きた人々の美意識や創造的な精神などを直接感じ取ることができる。それらを踏まえて現代の美術や文化をとらえることにより、文化の継承と創造の重要性を理解するとともに、美術を通じた国際理解にもつながることになる。



情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心をいい、特に美術科では、美しいものやよりよいものにあこがれ、それを求め続けようとする豊かな心の働きに重点を置いている。それは、知性、感性、徳性などの調和の上に成り立ち、豊かな精神や人間としての在り方・生き方に強く影響していくものである。

(2) 学年の目標

第1学年	第2学年及び第3学年
(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。	(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
(2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。	(2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
(3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。	(3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

学年目標は、教科の目標の実現を図るため、生徒の発達の特徴を考慮し、各学年における具体的な目標として示している。

- 各学年とも、(1)は美術の学習への関心や意欲、態度に関する目標、(2)は表現に関する目標、(3)は鑑賞に関する目標について示している。(2)は「A表現」に、(3)は「B鑑賞」に対応し、(1)は、「A表現」及び「B鑑賞」を指導する中で、一体的、総合的に育てていくべきものである。
- 第1学年では特に表現及び鑑賞の基礎となる資質や能力の定着を図ることを重視し、第2学年及び第3学年においては、第1学年で身に付けた資質や能力を更に深めたり、柔軟に活用したりして、創造活動の能力をより豊かに高めるように構成している。



第2学年と第3学年での指導に際しては、2学年間を見通し、学年間の関連を図るとともに、各学年段階で必要な経験などを配慮しながら、それぞれの学年にふさわしい学習内容を選択して指導計画を作成する必要がある。

3 美術科の内容のポイント

内容は、「A表現」と「B鑑賞」及び〔共通事項〕で構成している。

「A表現」の改訂の考え方

平成
10年
告示

A
表
現

(1) 絵や彫刻などに表現する活動
感じ取ったことや考えたことなどを基に形、色彩、材料を使い表現する力
【発想や構想の能力】 【創造的な技能】

(2) デザインや工芸などに表現する活動
伝える、使うなどの目的や機能を考え、形、色彩、材料を使い表現する力
【発想や構想の能力】 【創造的な技能】

【発想や構想の能力】は
(1)
(2)
でそれぞれ異なる

【発想や構想の能力】
(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に発想や構想する力

〈絵や彫刻などに表現する活動を通して指導する〉

【創造的な技能】
(1) 形、色彩、材料を使い、描いたりつくったりする技能

〈発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して指導する〉

【発想や構想の能力】
(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、発想や構想する力

〈デザインや工芸などに表現する活動を通して指導する〉

【創造的な技能】
(2) 形、色彩、材料を使い、描いたりつくったりする技能

〈発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して指導する〉

【創造的な技能】は(1)(2)で
大きな違いが見られない

柔軟な発想力や形、色彩、材料で表す技能などが関連して働くようにするため、育成する資質や能力を整理し、「A表現」を発想や構想に関する項目と、表現の技能に関する項目に分けて示す。

整理

平成
20年
告示

A
表
現

【発想や構想の能力】
(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に発想や構想する力

〈絵や彫刻などに表現する活動を通して指導する〉

【発想や構想の能力】
(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、発想や構想する力

〈デザインや工芸などに表現する活動を通して指導する〉

【創造的な技能】
(3) 形、色彩、材料を使い、描いたりつくったりする技能

〈発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して指導する〉

組み合わせて

(1) 「A表現」の内容

- 「A表現」には、(1)及び(2)の発想や構想の能力に関する項目、(3)の創造的な技能に関する項目がある。表現の学習においては、原則として(1)又は(2)の一方と、(3)を組み合わせることで題材を構成することとし、発想や構想の能力と創造的な技能が学習のねらいとして明確に位置付けられるようにしている。



表現の学習では、発想や構想の能力と創造的な技能が調和して働くことによって、生徒の創造性や個性が豊かに発揮された作品が作られる。



構想する場面では、どのような表現方法で表すのかも含めて検討することが必要になり、材料や表現方法などの創造的な技能における見通しを同時に考えて構想を組み立てていく必要がある。



創造的な技能を(3)として独立させたことにより、生徒の実態にあった多様な題材にも一層柔軟に取り組めるようになる。題材を工夫することにより、生徒の興味・関心を高めながら、発想や構想の能力と創造的な技能が豊かに育成されることが望まれる。

(2) 「B鑑賞」の内容

- 「B鑑賞」は(1)の1項目で鑑賞の能力に関する指導内容を示している。
- 鑑賞は単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくり出す学習である。



鑑賞の学習を推進していく手立ての一つとして、言語活動の充実を図る必要がある。他者の考えなども聞きながら、自分になかった視点や考えをもつことは大切であり、それらを取り入れながら、自分の目と心でしっかりと作品をとらえて見ることにより、自分の中に新しい価値をつくり出すようにする。

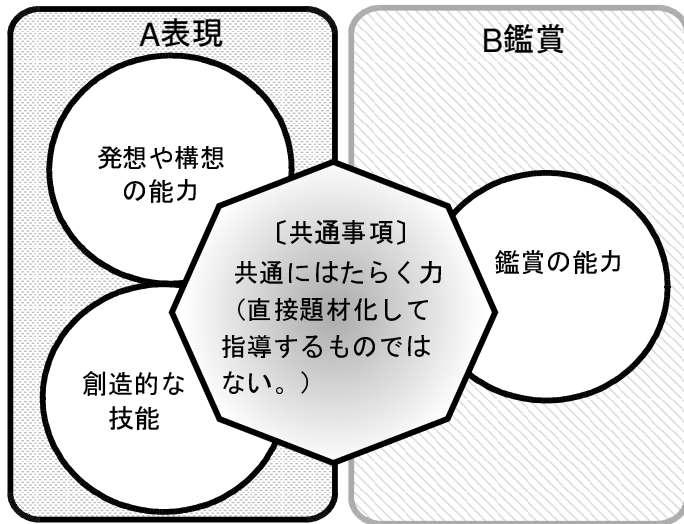


表現と鑑賞は、関連を図りながら指導していくことが重要である。鑑賞の学習の中に表現において発想や構想の場面でイメージを膨らませるような視点や、制作手順をたどりながら表現方法に着目させるような視点を位置付けることが大切である。

(3) 〔共通事項〕の内容

- 〔共通事項〕は、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力のいずれを育成するときにも、共通に必要な資質や能力である。
- 〔共通事項〕は、形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解することと、形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージを捉えることの2事項である。

- [共通事項] は、全ての学習活動の支えとなるものであり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導の中で取り扱う。
- [共通事項] は、小学校図画工作科においても示されており、[共通事項] に示された資質や能力は小・中学校9年間を通し、一貫して指導することに配慮する必要がある。



[共通事項] の共通とは、「A表現」「B鑑賞」の2領域及びその項目や事項のすべてに共通するという意味であり、小学校図画工作科の学習も考慮しつつ、指導計画を工夫することが大切である。

4 第1学年の指導のポイント

1 目 標	<p>(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。</p> <p>(2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。</p> <p>(3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。</p>
2 A 表 現 内 容	<p>(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。 ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。 イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。 ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。 イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。 ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。 ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。 イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。</p>

B 鑑 賞	<p>(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。</p> <p>イ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。</p>
共通 事項	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。</p> <p>イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。</p>

- 「形」の表し方については、第1学年では、形の捉え方、表し方の指導とともに、大まかな遠近感や簡単な立体感も表せるよう指導する。



形の捉え方、表し方の指導には、例えば、片方の目をつむることで立体感が薄れ形が捉えやすくなることや、鉛筆などを物差しとして使い、物の大きさの違いや傾きなどを捉えさせる方法を指導することなどが考えられる。

- 「色彩」の表し方については、第1学年では、3年間の美術科の学習を見通して、表現する技能の基礎を身に付けることができ、発展性のある材料や表現方法について意図的に取り上げ、その表現効果を実感的に理解させ定着させることも大切である。



色彩の指導には、例えば、使用する水彩絵の具の色数を限定し、色の醸し出す雰囲気や効果などを感じ取らせ、明暗による表現、混色や重色、ぼかしやにじみなどを体験させながら、その効果や美しさに気付かせるような題材が考えられる。

- 「作者の心情や意図と表現の工夫」では、作品を鑑賞するとき、主題と表現の工夫を別なものとして捉えず、主題との関わりで表現技法の選択や材料の生かし方の工夫などを見ていこうとすることが重要である。



心情や意図と表現の工夫などは、必ずしも正解があるわけではないので、作品が表している内容や、形、色彩、材料、表現方法などから、自分なりの根拠をもって感じ取ることが大切である。

5 第2学年及び第3学年の指導のポイント

1 目 標	<p>(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。</p> <p>(2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。</p> <p>(3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。</p>
	<p>(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、</p>

2 内 容	A 表 現	<p>主題を生み出すこと。</p> <p>イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。</p>
	A 表 現	<p>(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。</p> <p>イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。</p>
	B 鑑 賞	<p>(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。</p> <p>イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。</p>
共通 事項		<p>(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。</p> <p>イ 美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。</p> <p>ウ 日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。</p>
		<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。</p> <p>イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。</p>

- 「材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考え」ることについて、第2学年及び第3学年では、材料や用具のみならず、それを活用する表現方法の特性からも制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表現する力の育成を目指している。
- 自分の感じたことや作品についての自分の考えを、根拠を明らかにして述べたり批評したりすることは美術の鑑賞において大切な学習となる。また、自分の価値意識をもって批評するためには、自分の中に対象に対する価値を明確にもつことが前提となる。
- 「美術を通じた国際理解」とは、各国の美術や文化の違いと共通性を理解し、価値あるものとして互いに尊重し合っていこうとする態度を培うことである。



美術は、文字や言葉では表し得ない優れた表現手段であり、深いコミュニケーションの手段であることを認識し、美術を通して、自国の文化のよさを説明したり他国の文化を共感的に理解したりすることができるようになることが大切である。

6 美術科の指導計画作成と内容の取扱いのポイント

指導計画の作成及び内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮することが必要である。

(1) 各学年の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互の関連を図るようにすること。

(2) 各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること。

- 〔共通事項〕を「A表現」及び「B鑑賞」の学習の中で十分に指導をするためには、具体的な学習活動を想定し、〔共通事項〕に示している「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」や、「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること」をどの場面で指導するのかを明確にし、指導計画の中に位置付ける必要がある。



〔共通事項〕の視点で指導を見直し学習過程を工夫することや、生徒自らが必要性を感じて〔共通事項〕の視点を意識できるような題材を工夫するなどして、形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせて表現及び鑑賞の学習に取り組むことができるようにすることが大切である。

- 小学校図画工作科の〔共通事項〕を踏まえた指導にも十分配慮する必要がある。

(3) 「A表現」については、(1)及び(2)と、(3)は原則として関連付けて行い、(1)及び(2)それぞれにおいて描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにすること。その際、第2学年及び第3学年の各学年においては、(1)及び(2)それぞれにおいて、描く活動とつくる活動のいずれかを選択して扱うことができることとし、2学年間を通して描く活動とつくる活動が調和的に行えるようにすること。

- 表現題材を設定する場合は、「A表現」(1)及び(2)の発想や構想に関する項目と、(3)の創造的な技能に関する項目はそれぞれ単独で指導するものではなく、(1)又は(2)の一方と、(3)は原則として関連付けて行うこととしている。これは、表現活動においては、発想や構想の能力と、創造的な技能とが関連し合うことにより、相互の資質や能力が一層高まるためである。



時には、指導の効果を高めるために、「A表現」(1)及び(2)の発想や構想に関する指導内容や、(3)の創造的な技能に関する指導内容のみを短時間で単独に扱った題材設定も考えられる。その際は、他の題材との関連や配当時間などを十分検討し、指導計画を作成することが重要である。



第2学年及び第3学年では、より質の高い学習を目指すため、一題材に時間をかけて指導する必要がある。そのため、各学年において内容を選択して行うことが可能であり、2学年間ですべての事項を指導することとしている。

「A表現」の指導計画の作成例Ⅰ

A表現 学年	(1)と(3)		(2)と(3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを 基に、絵や彫刻などに表現する活動 描く活動	つくる活動	伝える、使うなどの目的や機能を考え、 デザインや工芸などに表現する活動 描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年	○			○
第3学年		○	○	

「A表現」の指導計画の作成例Ⅱ（第1学年は同じ）

第2学年		○	○	
第3学年	○			○

(4) 「B鑑賞」の指導については、各学年とも適切かつ十分な授業時数を確保すること。

(5) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、美術科の特質に応じて適切な指導をすること。

- 創造する喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、美術の創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。



美術科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道徳の時間に活用することが効果的な場合もある。また、道徳の時間に取り上げたことに関係のある内容や教材を美術科で扱う場合には、道徳の時間における指導の成果を生かすよう工夫することも考えられる。

(6) 各学年の「A表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるように、次の事項に配慮すること。

- 見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するために、スケッチの学習を効果的に取り入れるようにすること。
- 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。
- 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を活用できるようにすること。
- 表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。

(7) 各学年の「B鑑賞」の題材については、日本及び諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること。

- 学校や地域の実態に応じて、実物の美術作品を鑑賞する機会が得られるようにしたり、作家や学芸員と連携したりして、可能な限り多様な鑑賞体験の場を設定するようにする。
- 鑑賞の学習の計画に当たっては、総合的な学習の時間や学校行事、地域に係る行事などとの関連を図るなどの工夫も考えられる。

(8) 主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。

(9) 互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせるため、適切な機会を選び共同で行う創造活動を経験させること。また、各表現の完成段階で作品を発表し合い、互いの表現のよさや個性などを認め尊重し合う活動をするようにすること。



共同して行う創造活動の具体的な方法については、発想、構想、計画、制作から完成に至る過程での話し合いを重視し、学級全体あるいは小グループの活動などの中で互いの個性を生かした分担をして活動することなどが考えられる。

(10) 美術に関する知的財産権や肖像権などについて配慮し、自己や他者の創造物等を尊重する態度の形成を図るようにすること。



生徒の作品も有名な作家の作品も、創造された作品は同等に尊重されるものであることを理解させ、加えて、著作権などの知的財産権は、文化・社会の発展を維持する上で重要な役割を担っていることにも気付かせるようにする。

(11) 事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。



電動の糸のこぎりやドリルなど電動機械の使用時には教員が付き、慎重な取扱いが必要である。

(12) 生徒が随時鑑賞に親しむことができるよう、校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示するとともに、生徒や学校の実態に応じて、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料などの活用を図るものとする。

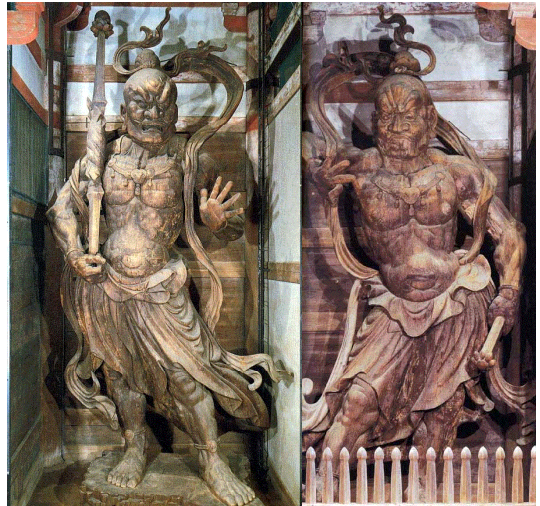
7 奈良県の郷土の素材等を活用した指導例

第1学年

1 題材名 『豊かな表情から』～奈良県の美術作品に親しむ～ 〈B鑑賞〉

2 題材について

美術の教科書や資料集を開くと、仏像彫刻などの奈良県の文化遺産が数多く取り上げられている。奈良県にはユネスコ世界文化遺産に登録されている「古都奈良の文化財」や世界最古の木造建築である「法隆寺」があり、国内はもとより多くの外国人が訪れる。このように文化遺産に恵まれた奈良県で暮らしているにもかかわらず、意外に奈良県の美術作品に対する生徒の関心が低いのではないだろうか。そこで、身近な奈良県の美術作品を教材にして、鑑賞の視点を提示することにより、生徒に関心をもたせ、積極的に鑑賞する態度を養いたいと考えた。



東大寺 金剛力士像

この題材では県内で見ることができる仏像彫刻や絵巻物に描かれた人物の表情に焦点を当て、その表情の豊かさや表し方の違いに気付かせ、奈良県の美術作品に親しみをもたせたい。

3 目標

- 奈良県の美術作品に親しみ、感性や想像力を働かせて鑑賞する態度を育む。
〈美術への関心・意欲・態度〉
- 表現方法の違いや創造力の豊かさなどを感じ取り、奈良県の美術作品についての見方や理解を深める。
〈鑑賞の能力〉

4 共通事項

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それがもたらす感情を理解すること。

仏像彫刻や絵巻物に描かれた人物の表情に鑑賞の焦点を絞り、それらがもたらす感情を感じ取る。

イ 形や色彩などの特徴をもとに、対象のイメージをとらえること。

仏像彫刻や絵巻物の全体像を見て、なぜそのようなポーズをしているかを想像力を働かせて考えたり、他の仏像などと比較鑑賞してその表し方の違いに気付いたりする。

5 指導計画（全1時間）

奈良県の仏像彫刻や絵巻物を鑑賞し、表情の豊かさや表し方の違いを感じ取り、親しみをもって鑑賞する。

6 評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
奈良県の文化遺産のよさや美しさに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	奈良県の文化遺産を鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化の特性やよさに気付いている。

7 準備物

生徒：教科書、資料集

指導者：コンピュータ、プレゼンテーションソフト、
プロジェクタ、ワークシート、参考資料



8 指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈良県の美術作品やその特徴などについて知っていることを発表し合う。 ○ 奈良県の仏像彫刻を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏像彫刻の表情に視点を当てて鑑賞する。 ○ インターネットを使い、自分が関心をもった仏像彫刻を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 様々な作品に関心をもち視点を明確にして鑑賞しているか。 ○ 感想をワークシートに書き、発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 仏像彫刻の表情を通してよさや美しさを自分の言葉で表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近に素晴らしい美術作品が多くあることや、それが世界の人々にとっても貴重な文化遺産であることに気付かせる。 ・ 表情の豊かさや違いに注目させる。 ・ 表情と仏像の種類との関係についてもふれ、表現方法の共通点や違いにも関心をもたせる。 ・ コンピュータ室でインターネットを利用した調べ学習ができるよう設定しておく。 ・ 表現方法の違いや作者の創造力の豊かさなどを積極的に感じ取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>活動が進まない生徒には、表情から読み取れる感情や作者が何を伝えたかったかなど視点を具体的に示し考えさせる。</p> </div>

9 指導のポイント

○ 情報教育の活用

発展的な学習として、インターネットを利用して、興味をもった作品について詳しく調べたり、様々な仏像の画像をダウンロードし、共通点や違いなどで分類し、「仏像百面相」としてまとめたりすることが考えられる。

○ 鑑賞と表現の一体化

時間があれば、仏像の表情をスケッチさせることで、表情の豊かさにより深く迫ることができる。

○ 地域の寺社などの利用

校外学習などの学校行事と関連させて、地域の寺社や博物館と連携し、実物を鑑賞する機会を設けることで、より奈良県の文化遺産に対する興味・関心や地域に対する理解を深められる。

第1学年

1 題材名 『自分の町にピクトグラムをつけよう』 <A表現(2)(3)・B鑑賞>

2 題材について

斑鳩町には世界遺産の法隆寺をはじめ、藤ノ木古墳や法起寺などの文化遺産やJR法隆寺駅、斑鳩町文化財活用センターなどの公共施設があり、海外からの観光客も多く訪れる。様々な人が利用する公共の空間を、人々が快適に感じるにはどんな工夫が必要なのかという視点で見ることで、自分たちの住む地域を再発見し、郷土愛を育てていくことができると考える。

初めて訪れた場所で目的の施設などを探すときに頼りになるのが、「案内用絵文字・ピクトグラム」である。最近では「目で見る言葉」「異文化をつなぐコミュニケーションツール」として、病院やタクシーなどで使われている。ピクトグラムの制作を通して、デザインの在り方やその価値に気付かせるとともに身近な環境に目を向け、美術と自分たちの生活との関わりを感じ取らせたい。

3 目標

- 自分たちの生活とデザインの関わりを体感し、主体的に創造活動に取り組む。
(美術への関心・意欲・態度)
- 形や色が人に伝える効果を理解し、楽しく分かりやすいデザインを生み出す。
(発想や構想の能力)
- 伝えたい内容を、材料や用具を生かし形や色を工夫して見通しをもって表現する。
(創造的な技能)
- 作品に対する互いの思いを知り、作品を鑑賞し合う。
(鑑賞の能力)

4 共通事項

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

色のもつ感情を理解し、掲示する場所に合った色や形のデザインを考えるようにする。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

象徴的なものや形からイメージをふくらませ、いろいろな人とのコミュニケーションが広がるようなデザインを考えるようにする。

5 指導計画 (全7時間)

- (1) 様々なピクトグラムを鑑賞し、伝達デザインに対する認識を深める。・・・1時間
- (2) アイデアスケッチをする。・・・2時間
- (3) 彩色し、ラミネート加工する。・・・3時間
- (4) 互いの作品を鑑賞し、感じたことを発表する。・・・1時間

6 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
デザインの学習に主体的に取り組む、構想を練ったり制作したりしようとしている。	感性や想像力を働かせて、目的や条件などを考え、デザインの構想を練っている。	伝えたい内容を、材料や用具を生かし形や色を工夫して見通しをもって表現している。	作品から見られるよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などをと感じ取っている。

7 準備物

生徒：鉛筆、スケッチブック、色鉛筆、定規、コンパス、アクリル絵の具
指導者：ピクトグラム資料、画用紙、ラミネートフィルム

8 指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ ピクトグラムを鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ピクトグラムの機能性に気付く。 ・町にどのようなピクトグラムがあれば便利かを考え、発表する。 ○ 今後の授業の流れについて把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪万博や東京・北京オリンピックに使われたピクトグラムについて紹介する。 ・共通している点や気が付いたことを発表させ、ピクトグラムの機能やデザインの特徴に気付かせる。 ・非常口のデザインにかかわった太田幸夫氏の思いを紹介する。 
課外	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町の施設や町に設置されているピクトグラムを確認する。 ・ピクトグラムを設置したい場所を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の身近な施設や寺院に目を向けさせる。 ・初めて町を訪れる人の視点に立って町を見るように助言する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町で見た施設やピクトグラムについて気付いたことを発表する。 ○ アイデアスケッチをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・使用場所を想定して、オリジナルのピクトグラムのデザインを構想し、スケッチする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>目的や条件に合ったデザインを構想しているか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色鉛筆を使って配色を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じデザインでも、色を変えて数パターンを考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>伝えたい内容が表現できているか。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>寺院</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>プール</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・町の現状についての認識を明確にし、使用する人や目的を想定し、それに合ったデザインを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>発想が広がりにくい生徒には、もののシルエットを意識させ、図と地のバランスを考えてデザインするよう助言する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインの意図が他者に伝わるかを、友達同士で作品を見せ合い確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>説明的になりすぎる生徒には、できるだけシンプルな形にするように助言する。</p> </div> 
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 画用紙に下がきをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・定規やコンパスを使用し、下がきする。 ○ 絵の具で塗りむらなく彩色する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の視覚的効果について色の学習を振り返り、使用する場所に合った図柄や配色にするように助言する。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの作品を鑑賞し、感じたことを発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>作品のよさや美しさ等を感じ取り、自分の言葉で表現しているか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・町に掲示することを想定し、作品を遠くから鑑賞し、意見を交流させる。

9 指導のポイント

○ 地域との関わり

学校を出て地域や町の人々と触れ合うことで、自分と社会との関わりや、身の回りにあふれているデザインについて具体的に考えることができる。また、制作したピクトグラムを実際に地域に掲示し活用することで、作品への愛着を一層深めることができる。

第2学年

1 題材名 『水墨の世界』 <A表現(1)(3)・B鑑賞>

2 題材について

墨は古くから水墨画に代表されるように、白と黒による東洋的な美しさをつくりだしてきた。たくさんの色に囲まれた現在の生活の中では、子どもたちは墨のよさに気付くことが少ない状況にある。墨の濃淡の奥深さは想像力をかき立て、空間を感じさせてくれる。墨の濃淡やにじみ、筆のかすれなどの特性を生かし、自分の思いを込めて個性的で大胆な表現をさせたい。

奈良筆は約1200年前、空海によって中国の製法が奈良に伝えられ、日本の筆作りが始まったと言われている。奈良墨も奈良時代、興福寺を中心に寺で作られていた。こうした伝統的な素材を使用し、現代的な感覚で新たなよさと可能性を引き出せるような表現に挑戦させたい。

3 目標

- 水墨での表現の美しさや空間の演出に関心を持ち、意欲的に表現活動を楽しむ。
(美術への関心・意欲・態度)
- 自分なりの表現方法や構図を工夫している。(発想や構想の能力)
- 水墨の特性であるにじみ・ぼかし・かすれなどの技法を生かし、今の心境を構図を考え、絵に表現する。(創造的な技能)
- 作品から感じたことや思いを交流し、水墨による表現のもつ美しさを味わう。(鑑賞の能力)



4 共通事項

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

墨を使った技法や墨の濃淡を体感する中で、白と黒の表現の美しさを理解する。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

墨の濃淡がつくりだす空気感や、余白のつくりだす奥行き感などが感じられるように画面構成を工夫し、自分のイメージに合った表現をする。

5 指導計画 (全7時間)

- (1) 水墨画の作品を鑑賞し、イメージをふくらませる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) 「梅」「竹」「達磨」の絵をかき、調墨や割筆などの技法を練習する。・・・・・・・・ 3時間
- (3) 自分の思いを込めた図柄を考え構想を練り、墨で表現する。・・・・・・・・・・ 2時間
- (4) 互いの作品を鑑賞し合う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

6 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
水墨での表現の美しさや空間の演出に関心を持ち、意欲的に表現活動を楽しもうとしている。	自分なりの表現方法や構図を工夫している。	水墨の特性であるにじみ・ぼかし・かすれなどの技法を生かし、絵に表現している。	作品から感じたことや思いを交流し、水墨による表現のもつよさや美しさを感じ取っている。

7 準備物

生徒：筆（書道の筆より毛が堅めで、短めのもの）、硯、墨、水入れ、パレット

指導者：筆、墨汁、刷毛、練習用紙、色紙、鑑賞ワークシート、参考資料

8 指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水墨画を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋と東洋の文化を比較し、日本の文化の特徴について認識を深める。 ○ 墨や筆の成り立ちや、水墨画について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の文化について、西洋の作品と違ったものの捉え方や、意識の違いに気付かせる。 ・ 写真や複製の参考作品だけでなく、より視覚的に墨の表現を理解させるために、実際的水墨画を提示する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 墨のよさを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 墨をすり、運筆練習をしながら、筆や紙のよさを味わう。 ○ 水墨のよさや美しさを意欲的に味わおうとしているか。 ○ 練習課題を制作する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆の持ち方や調墨、割筆の技法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な墨や筆の使い方や、水墨画の表現方法を提示する。 ・ 墨の水加減による濃淡やにじみ具合の違い、筆のスピードによる線の表現の違いに気付かせる。 ・ 練習をしながら、色紙に描く絵について発想を広げるように促す。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思いを込めた図柄を構想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現したいものをスケッチしたり、筆を使って練習したりしながら、イメージを具体的なものにしていく。 ○ 水墨の特性を生かし、色紙に表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ にじみ、ぼかしなどの技法を生かし自分なりの表現方法や構図を工夫して表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空間の概念を意識し、構図を考えさせる。 ・ 発想が広がりにくい生徒には、参考作品や図鑑などを提示し、助言する。 ・ 下がきをせずに一気に描き上げるため、十分に構想を練り、練習をしてから描くようにさせる。 ・ 墨の色が単調にならないように、墨の濃淡による表現を工夫するよう助言する。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品を展示し、鑑賞し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなの作品を鑑賞し、気付いたことを鑑賞ワークシートに記入する。 ・ 互いの作品のよいところを発表し合う。 ○ 水墨による表現のよさや美しさを感じ取っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表しやすいように、鑑賞ワークシートを活用し、記入させる。 ・ グループによる意見交流を取り入れ、水墨の作品のおもしろさや、個々の作品のよさに気付くようにする。



9 指導のポイント

○ 他教科等との関連

社会科、道徳、総合的な学習の時間など他教科等との関連から、授業を発展させることができる。日本古来から使われている墨や筆のすばらしさに触れ、奈良の都や寺社の成り立ちなどの学習と関連付けて、郷土への関心を深めていく。



第2学年

1 題材名 はりこでつくろう 〈A表現(1)(3)・B鑑賞〉

2 題材について

平群町には、「信貴山縁起絵巻」で知られる信貴山朝護孫子寺ちようごそんしじがある。この地域では、「はりこの虎」が民芸品としてつくられ、全国的にも有名である。このはりこの技法を使って身近な動物などを立体に表すことで、生徒に日頃振り返ることの少ない地元の歴史や文化に関心をもたせ、それらを大切にしていける気持ちを養いたいと考える。

信貴山の由来や歴史を振り返り、自分たちの郷土を知識として知るだけでなく、実際にはりこの技法により制作活動を行うことで、より親しみをもつことができると考える。また、なじみの深い紙で立体をつくるこの技法は、伝統的でありながら、新鮮さを感じるものである。軽くて様々な形をつくりだすことができるはりこの特性とその魅力に気付き、新しい造形活動を開拓していくきっかけとしたい。

3 目標

- 郷土の歴史や文化に親しみをもち、楽しみながら意欲的に制作する。 〈美術への関心・意欲・態度〉
- 感性や想像力を働かせて、形や色を工夫し表現したいものの構想を練る。 〈発想や構想の能力〉
- はりこの技法を理解し、素材のもつ特性を生かして立体に表す。 〈創造的な技能〉
- 自分や友達の商品のよさを感じ、認め合う。 〈鑑賞の能力〉



4 共通事項

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

紙や粘土の特性を理解し、はりこの技法に適した単純化された形や色を考える。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

粘土による造形活動や型どり、彩色などを通して立体のもつ存在感を感じ取る。

5 指導計画(全7時間)

- (1) 郷土の民芸品を通してはりこの技法を理解する。 1時間
- (2) アイデアスケッチをする。 1時間
- (3) イメージした立体を粘土で制作し、紙を貼る。 3時間
- (4) 乾燥後、粘土を抜き、彩色する。 1時間
- (5) ニス仕上げをし、作品を鑑賞し合う。 1時間

6 評価規準


美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
郷土の歴史や文化に親しみをもち、楽しみながら意欲的に制作しようとしている。	感性や想像力を働かせて、形や色を工夫し表現したいものの構想を練っている。	はりこの技法を理解し、素材のもつ特性を生かしながら創意工夫して表現している。	作品から見られるよさや美しさ、作者の意図や表現の工夫などを感じ取っている。

7 準備物

生徒：粘土べら、水のり、水彩絵の具、スケッチブック、筆記用具

指導者：粘土、新聞紙、半紙、和紙、水性ニス、木づち、参考資料

8 指導の展開

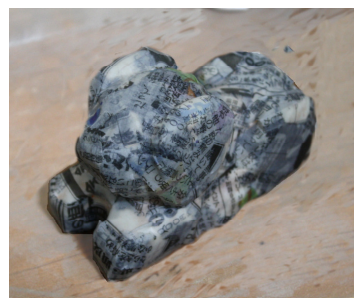
時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標について知る。 ・郷土の「はりこの虎」について知る。 ○ はりこの技法を理解する。 ・作業の流れをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料等を基に歴史や文化について説明する。 ・作業の流れを説明し、計画的に制作できるよう支援する。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作するものをアイデアスケッチする。 ・仕上がりを考えデザインしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを広げられるよう、複数描かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 粘土を抜きやすい単純化した形を具体的に示しイメージしやすいようにする。 </div>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 粘土で形をつくる。 ○ 紙を貼る。 ・新聞紙、半紙、和紙の順で貼る。 ・厚さが均等になるようにていねいに貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土の特性を説明し、バランスのとれた立体になるよう支援する。 ・十分に乾燥させてから、作業するようさせる。 ・はりこの強度を保つため、紙は少しずつ重ねたりへこみの部分は小さくちぎった紙を使ったりしてていねいに貼るように助言する。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乾燥後、中の粘土を抜く。 ・木づちを使って少しずつていねいに作業する。 ○ 彩色する。 ・イメージに合わせ、色や彩色方法を工夫しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に乾燥させてから、粘土をくぐり抜くように助言する。 ・破損した場合は和紙を貼り補修させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> イメージが広がらない生徒には、参考例を示し、色や彩色方法について助言する。 </div>
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ ニス仕上げをする。 ○ 自分や友達作品を鑑賞する。 ・感じ取ったことを自分の言葉で表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刷毛を使い一塗りでニスを塗り、絵の具がにじまないように注意させる。 ・自分や友達作品のよさや美しさを感じとり、批評し合うなどして、味わわせる。 ・自分や友達作品を大切に扱うよう伝える。

9 指導のポイント

○ 他教科等との関連

社会科や道徳、総合的な学習の時間等と関連させ、身近にある郷土の文化財を再認識し、それらに関心をもつことで、文化財等を大切にしていける気持ちを育むようにする。

また、制作を通して、石膏や樹脂などの型どり、ブロンズや乾漆造などの他の彫刻に対する理解や鑑賞等に発展させることができる。



第3学年

1 題材名 『ともにつくる思い出』～みんなでつくるジャンボ切り絵～ <A表現(1)(3)・B鑑賞>

2 題材について

生徒にとって中学校を卒業するという事は、それぞれの進路に向かって新しい一歩を踏み出すことでもある。

その後は、これまで共に学んできた仲間とも、顔を合わせる機会は少なくなる。このような時期に、生徒が互いの個性を生かし合い協力してジャンボ切り絵の制作に取り



組む活動を通して、残り少ない中学校生活の一コマを共有し、出来上がった作品を卒業式の晴れの舞台に飾ることにより、中学校生活の思い出づくりにさせたいと考える。

切り絵の材料や用具、技法上の特徴を理解して卒業をイメージしたデザインを工夫し、個々のよさを生かし協力して制作するとともに、表現のよさを感じ取り認め合うようにしたい。

3 目標

- 個々のよさを生かし、互いに協力して積極的に制作する喜びを味わう。
〈美術への関心・意欲。態度〉
- 形や色の効果を工夫し、テーマに合った切り絵のデザインの構想を練る。
〈発想や構想の能力〉
- 材料や用具の特徴から制作の順序を理解し見通しをもって制作する。 〈創造的な技能〉
- 作品全体に見られる表現のよさや美しさを感じ取り、互いの表現のよさを認め合う。
〈鑑賞の能力〉

4 共通事項

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それがもたらす感情を理解すること。

切り絵の材料や用具の性質、技法上の特徴を理解し、それらを生かした制作をする。

イ 形や色彩などの特徴をもとに、対象のイメージをとらえること。

切り絵の制作手順を理解し、完成作品全体のイメージをもちながら制作に取り組む。

5 指導計画（全7時間）

- (1) デザインと作業分担の決定をする。 1時間
- (2) 切り絵を制作する。 1時間
- (3) 切り絵の図柄をベニヤ板に転写する。 1時間
- (4) パネルを作成する。 1時間
- (5) パネルに彩色する。 2時間
- (6) 切り絵をパネルに接着する。 0.5時間
- (7) 作品を鑑賞する。 0.5時間

6 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
材料や用具等の特性を生	形や色彩の効果を生	材料や用具の特徴か	互いの表現のよさを認

かし、協力して主体的に学習に取り組もうとしている。	かしテーマに合ったデザインを工夫し構想を練っている。	ら制作の順序を理解し見通しをもって表現している。	め合い、作品全体に見られる表現のよさや美しさを感じ取っている。
---------------------------	----------------------------	--------------------------	---------------------------------

7 準備物

生徒：アクリル絵の具、ペットボトル（塗料入れ）、大きめの筆

指導者：プラスチック製の段ボール板および同サイズのベニヤ板、角材、スプレーのり、カッターナイフ、布テープ、両面テープ、のこぎり、釘、金づち、接着剤、参考資料

8 指導の展開

時間	活動の流れ	指導上の留意点
1	○ 卒業制作のデザインと作業分担を決める。 形や色の効果を生かしデザインを工夫しているか。	・事前に全員が考えたデザインの中から、卒業制作にふさわしい図柄を選ばせる。 ・制作の見通しを立てさせ、一人一人の持ち味を生かした役割を選ばせる。
1	○ 選ばれたデザインを紙に拡大印刷し、段ボール板に貼る。 ○ 段ボール板をカッターで切断し切り絵をつくる。	・複数の生徒で協力してずれやしわが出ないように貼るようにさせる。 ・カッターナイフを正しく使い、段ボール板の図柄の部分を残すように切断させる。
1	○ ベニヤ板の表面に、切り絵の図柄を写し取る。	・複数の生徒で協力してベニヤ板に段ボール板でつくった切り絵を重ねて、図柄を転写させる。
1	○ ベニヤ板の裏面に角材を打ち付け、パネルをつくる。	・角材を両面テープで仮止めし、釘を打つときにずれないように注意させる。
2	○ 下絵の色見本をもとにパネルに彩色する。 全体の色調を意識しながらていねいに彩色しているか。	・学級間で色の違いが大きくなるように注意させる。 常に隣のパネルと見比べながら、彩色するように助言する。
1	○ 切り絵をパネルに接着して完成させる。 ○ 完成した作品を鑑賞する。 表現のよさや美しさを自分の言葉で表現しているか。	・切り絵を接着したときに、ベニヤ板が見えないよう転写された図柄より大きめに彩色させる。 ・接着剤がはみださないように均一に塗布させ、複数の生徒で協力して接着するようにさせる。 ・個人の担当した部分の制作についての振り返りや完成した作品全体のイメージなどについて思いを出し合わせる。

9 指導のポイント

○ 学校行事や地域との関わり

生徒作品を様々な学校行事などを通して保護者や地域に広く発信したり、身近な生活の中に生かしたりすることで美術への関心を深めるよう工夫する。



— 作 成 委 員 —

吉 田 義 和	奈 良 市 立 平 城 東 中 学 校	校 長
平 松 康 明	橿 原 市 立 畝 傍 中 学 校	教 諭
垣 内 宏 志	宇 陀 市 立 榛 原 中 学 校	教 諭
池 端 倫 子	斑 鳩 町 立 斑 鳩 中 学 校	教 諭
吉 村 茂	奈 良 県 教 育 委 員 会 事 務 局 学 校 教 育 課	係 長

(作成委員の職名等は平成22年度のものである。)